



1月の月間目標

ほんをよもう！



～子どもと一緒に、家族で本を読む時間をつくりましょう～

就学前後の頃の子どもは、絵本や物語を読んでもらうことが大好きです。「読み聞かせ」は、一方的な語りかけのテレビや動画の視聴とは違い、目の前の人が自分のために読み、語ってくれる、子どもにとっては、本の楽しさを味わうだけでなく、大人のぬくもりを感じられる特別なひとときです。子どもは、お話の世界の中で遊び、登場人物の気持ちに思いをめぐらせ、感性を磨き、イメージネーションを育てていきます。家庭では、子どもが小さい頃は、時間の許す限り、膝に座らせたり、就寝の時に添い寝をしたりして、読み聞かせをしてみましょう。

子どもが本を自分で読むようになってからも、読んでいる本の話の聞いたり、同じ本を読んだりして、家族で本を読む習慣を付けましょう。



読書にも発達段階があります

家庭でこんなことしませんか



○絵本や物語を読み聞かせ、子どもが**たくさんの言葉に出会う**ようにしましょう。

○例えば、りんごの絵本を読む時は、りんごを用意して読むなど、**体験と結びつけて、イメージを豊かにし、絵本や物語の世界を楽しむ**ようにしてみましょう。

就学前の子どもは、周りの人との関わりで言葉を獲得しますが、絵本や物語を通して、言葉を増やしていきます。

○休日には、図書館に出かけるなどし、親子で本を楽しみましょう。

○家庭では、手を伸ばせば本があり、**子どもの好奇心を満たせるような環境**を作ってみましょう。

小学校低学年頃には、一人で本を読むようになり、文字で表された情景をイメージするようになります。**小学校高学年頃**になると、好みの本の傾向が現れるとともに、読書の幅が広がります。

○親子でお互いが好きな本を薦め合ってみましょう。

○子どもの誕生日に**本をプレゼント**してみましょう。電子書籍を活用することもできます。

中学生頃には、共感したり感動したりできる本を選んで読む傾向が現れてきます。読書を将来に役立てようとするようになります。

ある調査によると、1年間に幅広い種類の読書をした子どもほど、興味や知識の広がり、考える力の向上、創造性の育ちなど、様々な力の高まりを感じていることが分かったそうです。(参考「小学生の読書に関する実態調査・研究」ベネッセ総合教育研究所)

読書には、様々な効果があると言われますが、何よりも、親子で本に接し、共感し合うひとときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間であり、親にとっても子どもの素敵な表情を見られるうれしい時間です。大好きな大人の声で読んでもらった本は、大きくなって子ども心に大切な思い出として残るでしょう。

新型コロナウイルス感染症の影響で、外にも出かけにくくなっています。こんな時は、部屋を暖かくして、家族で読書を楽しみませんか。



毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日

(いきいきサテーン)」です

奈良県立教育研究所

(令和3年1月発行)

家庭教育
Web ページ

